



杉並

区労連便り

杉並区労働組合総連合
2023. 11. 28 (火)
TEL FAX 5941-5332

杉並区労連第32回定期大会開く

来る2月で結成30年を迎える杉並区労連。10月26日(木)、杉並区立阿佐谷地域区民センターにおいて区労連第32回定期大会が開かれました。

多忙を極める中、皆さんの奮闘で大会は無事終了することが出来ました。

大会は、議長に全厚生の方角谷さんを選出した後、高田区労連議長の挨拶、屋代東京地評事務局次長の来賓挨拶を受け、直ちに議事に入りました。

第一号議案の経過と運動方針案、第二号議案の決算と予算案の提案を峰



事務局長が行いました。会計監査報告は、佐藤憲一さんが行いました。

大会では、質疑・討論の後、報告と提案を採択。新年度の役員を選出をしました。

また、大会には東京都労働相談情報センターの田中さんが取材にお出でになりました。

選出された今年度の役員は次の通りです。

【議長】高田勝善(電機・情報ユニオン) 【副議長】

前山武雄(都教組) 【事務局長】峰一史(杉並一

般) 【常任幹事】佐藤正史

(全厚生日

本年金機

構) 八木

智彦(日本

年金者)最

上万希(福

祉保育労

に要請中)

【会計監

査】佐藤憲

一(全厚生)

【退任】村

上豊(建交

労・長年あ

りがとう

ございました

会務

区労連議長

高田 勝善

23春闘は近年にない賃

上げがあったものの。物価上昇には追いついていない。これをはねのけようと、秋の闘いが組まれ、24春闘に向けた取り組み

が進んでいる。要求を集め。組合を大きくして24春闘も頑張っていく大会にしていこう。

の挨拶

東京地評

事務局次長

屋代 眞さん

今、日本は、17ヶ月連

続で実質賃金が低下している。それは自民党の岸田政権の経済政策が大企業、富裕層中心に利益がもたらす政策がとられていて、国を支える労働者国民のための政策が取られていないところに最大の原因がある。

9月に開かれた東京地評の大会では最大の眼目

「学び行動し、行動し学ぶ」、そして労働者の切実な要求をきちんと聞き取り、それを使用者・経営者にきちっと出していく。それだけでも労働組合の魅力が高まり、組織の維持発展につながっていくのではないかと。労働基準法第2条には労使対等で労働条件を決めることだ。年金機構と同様になる。そうすると雇用の継続はあるが、それもどうなるか心配だという声も上がっている。

問題の二つ目は、合併後の特殊法人の運営がますます外部の資金に頼るようになるのではないかと心配されている。

会務の言葉

皆さんに知っていたくださいたい心配なこと

全厚生省労組

日本年金機構

本部支部

日本年金機構で働いている半分が非正規職員だ。この中から組合加入者も出ている。8月に支部大会が開かれ、新しい役員も迎えて元気に活動している。本部の大会があった。

そこで大きな話題になったのは、コロナでよく知られるようになった「国立感染研究所」が「国立国際医療センター」と合併して、新しく「国立健康危機管理研究機構」が作られることになったこと。今年の5月31日、国民に余り知られていない中で法律が成立した。問題の一つは、今の研究所は国家公務員だが、合併してできるのは研究機構という特殊法人なので、国の公務員ではなく

大会の言

ライドシェアに
反対
自交総連
吉祥寺交通労組

5年前に営業所が高井戸から三鷹に引っ越したが、引き続き杉並区労連に加盟している。
11月からの秋闘が始まるが、今回の大きな問題は、国が一種免許でも

よいとしようとしていることだ。我々は2種免許をとっているが、これを奪えられれば地理試験もなくなる。裏を返せば安上がりに外国人を雇えるということだ。運転手の質、安全はどうなるのか。また、事故が起きた場合の保障はどうなるのかなどの問題もある。
こういう状況では一般の人を乗せられないでしょう。我々はこうした動きには反対だ。

大会の言

子どものためになる
ところこそ
予算を付けて
都教組杉並支部

ある学校で、都の研究指定校を受けたので2年間限定で予算がつけれ、不登校の教室がつけられた。正規の教員も一人配置された。
不登校の子どももそこへならいけ

るようになった。給食だけは元の学級に行けるとか少しづつ改善され、保護者にも喜ばれるようになった。
しかし、それは2年間だけの事業なので、部屋は存続しても正規の教員は付かなくなった。ボランティアの方に来ていただいているというが、やはり1人の人が固定ででないとい、子どもたちも行きにくい。
このようなところにこそ都の予算を有効・継続的に出してもらいたい。

大会の言

過労・人手不足・
賃上げできない
医療現場
東京民医連
健友会支部

中野区にある共立病院と、九つの診療所のうち三つが杉並にある。

は5種移行になって打ち切られた。また物価高騰のため経営改善につながらず、賃上げもできない状況で苦しんでいる。人手不足も問題で、16時間勤務も当たり前、加えて残業もある。
医療は公定価のため病院独自で値上げはできないので、国に対する闘いをますます強めたいといけない。

組合はユニオンシップなので、若い組合員はいるが、コロナ禍の中でお互いにつながりが薄くなっている。インフルエンザも流行ってきたので、コロナ前に比べて気を付けることや、やらなければいけないこと、国からの補助金が増えて大変だ。国からの補助金

昔は「医療は賃金って高いわね」と言われたが、今はパートも最低賃金と同じような水準なので、少なくとも一五〇〇円に持っていくことが大事だ。
今後とも一緒に闘っていきたい。

大会の言

課題は山積み
秋闘で賃上げを
高千穂大学
教職員組合

大学は学校法人で、幼稚園が併設されている。組合は教員がほとんどだが事務職員の方もおられる。いろ

いろな課題が山積みだ。賃上げも進んでいない。コロナ禍の時はコロナ手当も1年間是非常勤にも出た。委員長も代わり、最近はおんラインになったりしているので、活動も変化している。
当面は賃上げをはじめ秋闘に向け取り組んでいきたいと思つて大会に参加した。

大会の言

基準を引き上げて
職員を増やして
福祉保育労
さゆり保育園分会

女性がほとんどの職場だが、コロナで働けなくなったり、育休の人、復帰しても子育てで大変な人、また退職したりする人もいるので新しい人も多く、組合活動も大変。
4・5歳児30人に1人の保育士と

いう国の劣悪な配置基準は改善されないままだが、私の保育園は、3・4・5歳児30名に5人の正職とパートさんに入ってもらっている。しかし、そうすると杉並区の加算措置はあるものの、人件費がかさみ、賃金アップに回らない。給料が安いから募集をかけても人が来ない、引き継ぎもできないでいる。
福祉保育労は一人でも保育士を増やそうと頑張っている。署名活動へのご協力もお願いします。

大会の言

持続できる報酬改定
を
東京民医連
西部保健生協

杉並の3つの診療所で医療介護の仕事をしている。健友会と一緒で。
この一年間、75歳以上の窓口負担が2割に増えたが、診療報酬の仕組みで、医師はたくさん訪問診療に行かないと収入

にならない。看護師もしつかり訪問していかないと報酬に返ってこない。コロナの中では体調を壊して訪問にいけなかったこともあり、経営にも影響したし、り一時金にもだいぶ影響した。体調を取り戻し、これからは頑張っていきたい。
今度の春には診療・介護報酬の改定がある。きちんと収入も得て持続できる法人になるよう頑張りたい。

争議団紹介

全厚生・松本さん



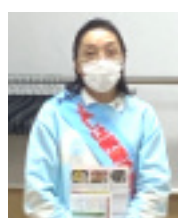
2009年、社会保険庁が解体され日本年金機構が設立されるにあたって525名が不当解雇された。松本さんは「裁判を通じての闘いは、最高裁で敗れたものを、解雇の不当性を訴え、闘いを続けたい」と訴え、闘いを続けたいと訴えました。

大会で争議団紹介

不当解雇 から13年

誇りを持ち
最後まで闘う

JHU (JAL) 争議団・鈴木さん



JALは、解雇争議の解決案として「業務委託契約による業務の提供」(月額12万5千円の報酬で2年間)を提案してきましたが、これは雇用によらない働き方で労働関連法が適用されません。不当に解雇された被解雇者の働く権利の回復、名誉回復にはなりません。JHUは、不当労働行為について、東京都労働委員会に救済申し立てをしています。

また、国交省についてもJALを指導監督する立場にあり、人員削減計画に深く関与し、「使用者性」があったところから、団体交渉を更に求め、都労委への申し立てを行っています。
鈴木さんは「さらに大きなご支援をお願いします」と述べ、あわせて12月22日の行動への参加協力を訴えました。

JAL本社包囲行動

12月22日(金) 午後6時30分
天王洲アイル JAL本社前